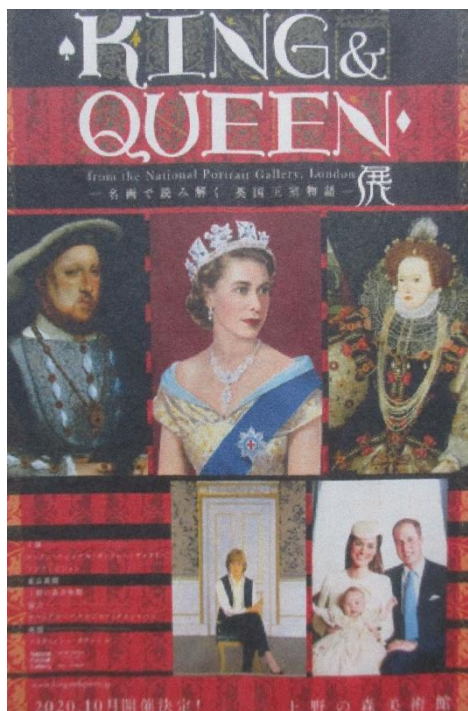


## KING & QUEEN 展 ―名画で読み解く英国王室物語―

上野の森美術館（上野公園） 2020. 10. 10～2021. 01. 11



本展は、世界屈指の肖像専門美術館「ロンドン・ナショナル・ポートレートギャラリー」所蔵の「ヘンリー7世」から現在の「エリザベス2世」までの500年あまりの英国史を、「約90点の肖像画」で辿る企画で、知れば知るほど面白い英国王室の歴史である。

英国王室は、11世紀から現代まで約1000年の伝統を受け継ぎ、現在も世界中の注目を集め続け話題にこと欠かないが、「デューダ朝」から現在の「ウインザー朝」まで5つの王朝の貴重な肖像画や写真などが展示され注目される。さらに、作品の魅力と併せ、美しく気品に満ちた肖像画のモデルである王室の面々が辿った運命は、幾度となく映像化や舞台化されて何時の時代も世界中を虜にする。



作者不詳 《エリザベス1世（アルマダの肖像画）》 1588年頃 油彩/板 （上図）

等身大の肖像画は、1588年にイングランド侵攻を試みたスペイン無敵艦隊を英国艦隊が撃破したことを記念して作成された作品とされる。

D・ウィルディング撮影、P・ジョンソン彩色 《エリザベス2世》 1952年 （下左図）

新女王即位を記念して製作された作品で、当時、紙幣や切手の肖像として採用された。



トーマス・ローレンス 《ジョージ4世》 1814年頃 油彩/カンヴァス （下右図）

摂生皇太子時代の華麗で威厳に満ちたポーズを作品は、華やかな筆致が優々しく高貴に描かれている。